

平成21年度 第4回 CCC 情報専門系グループ運営委員会
議事概要

日時：平成21年10月9日（金）11時から15時
場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室
出席委員：大原茂之、斉藤信男、日置慎治
事務局：向殿会長、井端事務局長、森下、恩田
欠席：荒木委員

議事概要

学士力の議事に先立ち、向殿会長より、「ITパスポート」に関して「ITパスポート試験普及協議会」の設立総会の様子の報告があった。

「ITパスポート」は現時点では、内容的にも社会人向けであり、そのまま大学教育の中身に持ってくることに無理があるとの意見で大方の一致を見たので、私情協としては積極的に推し進める事はせず、会員大学への窓口として、会員等へのアナウンスにとどめてはどうか、という事となった。

続いて、議事に入った。

I. 事務局より、「情報系学士力」について、大原先生に作成頂いた案を元にして、本日のうちに決めてしまい、決めたものをサイバー研究員に見て頂いて意見を聞く作業に入る、との説明があった。

II. これまで議論してきた以下の4本の柱について、

1. 情報通信技術の基本原則および技術的要素の基礎を理解している。
2. 情報通信技術の基本的なツールを必要に応じて、問題発見・解決に利用することが出来る。
3. 情報通信技術を応用したシステムのライフサイクルの概要を理解している。
4. 情報通信技術の利用を通じて、豊かな社会の実現を考えることができる。

【到達目標】、【コアカリキュラムのイメージ】、【到達度】、【測定方法】という3つの観点から整理することとなった。

III. 前回までの議論において、情報系における学士力を2つのレベルに分けて定義する必要性について合意を得、それらを

活用編・・・広く情報系一般に通用する内容

開発編・・・情報を専門とする学部に関する内容

と呼んでいたが、より素直な表現である、〈一般レベル〉、〈専門レベル〉という文言を使うこととした。

IV. 〈専門レベル〉はその前提として、〈一般レベル〉を含んでいるという説明を付記することとし、共通している箇所は可能な限り、〈一般レベル〉の方に入れることとした。

V. 測定方法については、以下の4つの方法の中から、各目標、各レベルに適切な方法を選択することとした。

- ・試験
- ・レポート
- ・発表
- ・実習の観察

VI. 以上の方針を元に、出席者が共通の画面を見ながら、情報系学士力について議論しつつ、作成作業を進めた。

「1. 情報通信技術の基本原則および技術的要素の基礎を理解している。」の〈専門レベル〉の⑤⑥

⑤特定の情報通信技術を応用したシステムに使用されている技術的要素の役割、機能を説明できる。

⑥複数の異なる技術的要素を組み合わせ、要求されたシステムを構想することができる。

については少し要求が高すぎるのではないかという意見も出たが、〈専門レベル〉であればこれくらいは必要であろうとの認識で一致した。

「2. 情報通信技術の基本的なツールを必要に応じて、問題発見・解決に利用することが出来る。」について、「多変量解析」などは<一般レベル>と考えるには難しい側面もあるが、情報系の大学生には是非とも知っておいてほしい内容であると一致した。

「三段論法」という表記は、「論理的思考法」に含めて解釈することとした。
「情報系」でなく、「共通系」に含まれるべき内容はすべて割愛した。

VII. 今回まとめたものを、後ほどメールにて委員に送るので、確認の上、15日までに返送の事。その後、サイバー研究員から意見を聞き、最終案としたい。

日程調整の結果、次回日程は10月30日（金）9：30ーと決定した。